

島根県水産振興審議会（平成29年度第1回）議事録要旨

■日 時 平成29年11月17日（金）10:30～16:10

■場 所 島根県浜田合同庁舎 501・502 会議室、現地

■出席者

【委員】門脇委員、林委員、野津委員、小川委員、高尾委員、保永委員、園山委員、波田地委員、加藤委員

【事務局】松浦農林水産部長、細馬農林水産部次長、鈴木水産課長、三浦水産しまね振興室長、川島隠岐支庁水産局長、今岡松江水産事務所長、来間浜田水産事務長、鳥屋尾農林水産総務課管理監、外関係職員

■審議会の概要

1. 開 会

2. 農林水産部長あいさつ 松浦農林水産部長

3. 出席者紹介

4. 議事

（1）会長及び会長職務代行者の選出

- ・水産振興審議会規則の規定（資料1）に基づき、委員の互選により、会長に保永委員、会長職務代行者に高尾委員を選出した。

（2）石見地域の漁業の概要、水産振興施策について（説明：浜田水産 小谷課長）

- ・資料2に基づき説明を受けた。

（3）石見地域沿岸漁業活性化プロジェクトについて

①学校給食への地魚供給の取組みについて（説明：佐々木普及員、加藤委員）

- ・資料3に基づき、浜田市内学校給食における地魚利用に向けた取組みについて、その狙いや実施状況について説明を受けた。

②関係機関との連携（現地調査）（説明：ビービー工房 稲垣室長）

- ・学校給食への地魚供給の取組みに関連して、定番商品の開発に連携して取組む「若女食品ビービー工房」にて、定番商品の開発状況の説明を受けた後、加工施設を見学した。



左：定番商品の開発等について説明を受ける様子 右：加工施設見学の様子

(4) 浜田地域の基幹漁業構造改革推進プロジェクトについて

①浜田市水産加工業・流通業

現地調査：浜田市公設仲買売場、渡辺鮮魚店

(説明：浜田魚商協同組合 石井事務局長、渡辺鮮魚店 梅野代表)

- ・浜田市公設仲買売場にて浜田市水産加工業や流通業の概要説明を受けた後、渡辺鮮魚店にて新たなブランド「沖獲れ一番」の評価や取扱い状況等の説明を受けた。



説明を受ける様子（左：浜田公設仲買売場前、右：渡辺鮮魚店）

取組み状況の説明：浜田合同庁舎

- ・現地調査から浜田合庁に戻り、(4) ①の関係者から取組み状況について順次説明を受けた。

i どんちっちブランド化の取組み状況

(説明：浜田市水産物ブランド化戦略会議 渡邊部会長)

- ・資料4により、浜田市水産物ブランド「どんちっち」の取組み概要について説明を受けた。

ii 脂質測定装置の実演（説明：水技セ 開内専門研究員、同戦略会議 渡邊部長）
・資料5により、脂質測定装置の概要説明の後、マアジの脂質測定を実演した。

iii 新たな加工品開発（缶詰）に向けての取組み（株式会社シーライフ 河上代表取締役）
・資料5により、新鮮な原魚を利用した缶詰開発の取組み状況の説明を受けた。

②新たなブランド「沖獲れ一番」

i リシップ事業、沖獲れ一番の取組み概要（説明：浜田水産 為石専門普及員）

・資料6により、沖合底びき網漁業の概要やリシップ事業の狙い等の説明を受けた。

ii 沖獲れ一番の取組みについて（説明：水産技術センター 開内専門研究員）

・資料7により「沖獲れ一番」の鮮度の良さについて、科学的な側面から説明を受けた。

iii 浜田沖底が実施するアカムツ資源管理の取組紹介（説明：水産技術セ 金元研究員）

・資料8により、小型魚の漁獲状況に応じて禁漁区を設ける機動的資源管理の概要について説明を受けた。

iv 沖獲れ一番の生産、販売状況（説明：県機船連 金坂会長）

・沖獲れ一番の評価や今後の課題について説明を受けた。



左：審議会の様子 右：脂質測定装置の実演の様子

主な質疑

問) 海藻が少なくなったのは事実と思うが、磯焼けの原因は？

答) 水産技術センターではモニタリング調査を実施している。夏の超高水温によるアラメ、カジメの大量枯死、海藻食の南方系魚類の増加が原因の一つ。海藻にとって、生長期間が短く食害種が増えており、その生長には良くない環境である。

問) 学校給食での魚料理の残食割合は？

答) 一匹まるごと魚を食べる取組みだと残食はなし。サバ、トビウオ、サンマなどの青魚は残食率が高い傾向にある。

問) 青魚の残食率が高い理由は？

答) 臭いと骨。特に魚嫌いの子供は臭いに敏感。ただし、ワンフローズンは美味しい。味付けや加工方法（何度冷凍、解凍するか）は魚食普及にとって重要。

意見) これまで浜田市立三隅小学校で学校給食による魚食普及活動を実施してきたが、魚嫌いの児童が40%から20%に減少した。保護者と一緒に加工品づくりを行い、家庭での魚食普及につなげるなど、今後は子供から家族へ魚食普及活動を発信する。魚食普及を通じて見えることは命の大切さ、和食文化やお箸の使い方も含めたマナーなどの課題。

意見) 長期的な視点からの意見ですが、一匹まるごと魚を食べる取組みにはびっくりした。将来の魚食普及の救世主になるかもと強く感じた。

意見) 新たな商品づくりとして缶詰の取組みは非常に興味深い。100円のを20個売るより、2,000円のを1個売の方が、生産者にとって励みになる。今回の会合では生産者側の取組み状況の説明が多かったが、島根の魚に対するエンドユーザー、つまり消費者の反応を聞かせてほしかった。

5. 閉会あいさつ 細馬農林水産部次長

6. 閉会